

## 令和元年度東三河自然再生推進業務事業概要（東三河総局委託事業）

### 1. 業務の目的

特色ある多様性に富んだ東三河地域の自然環境を保全し、次世代に残すことを目的に平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間で地域の環境保全を託せるリーダーを養成した。昨年度は、養成した人材 15 名を「地域環境リーダー」として任命し、地域の環境課題を考えた。

2019 年の令和元年度は、次世代への継承を目的に地域環境リーダーが、小学生を対象にした出前講座と高校生を対象にツアーガイド体験事業の 2 事業を通して自分たちの知識と経験を伝えることを目的に事業展開した。

### 2. 実施概要

#### (1) 自然環境学習講座（出前講座）

東三河地域の小中学生を対象に参加校を募集、豊川市千両小学校 5 年生 20 名の参加が決まった。

#### ○出前講座の実施

2 回の出前講座「自然環境学習講座」を 10 月 23 日(水)と同 29 日(火)の 2 日間実施した。出前講座は、地域環境リーダー 5 名が専門的知識あるアドバイザー 1 名の支援を受け、5 年生 19 名と一緒に校内の自然を観察したり、外来種のメリケントキンソウ駆除を実践した。

校内で観察した植物を採取して準備した地図に張り付ける「生き物マップ」づくりをした。在来種と外来種の棲み分けについては、在来種 10 種と外来種が椅子を取り合う椅子取りゲーム方式で「生き物カード（椅子取り）ゲーム」を通じて楽しみながら考える機会を提供した。

また、校内を中心に採取したセイタカアワダチソウ、ノコンギク、アレチハナガサ、イヌタデ、スギナ、タマスダレ、オニガヤツリ、シロザ、ヒネモロコシ、サクラタデ、ヒメジョオン、マメグンバイナズナ、ヤブラン、ヒメツルソバの 14 種を花器に見立てたオオトクサに生ける「野草生け花アート」で植物の種類を覚えてもらうなど、児童の学校生活の延長線で環境についての理解を深めてもらうなど地域環境リーダーの知識や経験の次世代への継承を図った。



外来種と在来種の棲み分けについて意見交換

## (2) 自然の魅力発見ツアーガイド体験

応募してきたのは前年度に普通科に「観光ビジネスコース」を新設したばかりの福江高校（田原市）だった。渥美半島の魅力発見をテーマに入学第1期生の2年生32名がエコツアー設計とツアーガイド体験をすることになった。

地域環境リーダーは6名と専門的知識と経験があるアドバイザー4名の計10名が交代で参加した。高校生と一緒にエコツアーを設計、高校生がツアーガイドを実践した。地域環境リーダーとアドバイザーのうち5名は、2年前に渥美半島でエコツアーを設計、自分たちでガイド実践した経験があり、その経験を伝えた。

### ○ワークショップ開催

ツアーガイド体験の実施へ向けて夏休み中の8月20日、27日と9月4日の3日間プラス10月2日の計4回のワークショップを行い、渥美半島のガイドすべきテーマの選定とガイド内容を検討し、エコツアーのコース設計をした。

また、ツアーコース訪問場所として愛知県のいらごさららパーク、伊良湖岬の古山と恋路ヶ浜、渥美半島の代表的なツバキを栽培し、椿の森の再生を実践している永田農園の「椿の里山」の3か所を選んだ。

### ○エコツアーでガイド実践

エコツアーは、10月19日と26日の2回実施で一般参加者は、22名と19名の計41名だった。高校生は、地域環境リーダーと一緒に自作した訪問地3か所のガイドカードを手にガイド実践をした。一般参加者の家族連れ、夫婦参加者等は、高校生の懸命なガイドに満足した様子だった。

また、昨年度の地域環境リーダーが継続している古山のサケバヒヨドリ保全活動もあって一般参加者には、飛来したアサギマダラのマーキング体験をしてもらった。高校生は初めてマーキングも見学でき、地域環境リーダーの日常的な活動の継承になった。



地域環境リーダーと一緒に高校生が作成した渥美半島の魅力あるポイント紹介のガイドカード



2回目のエコツアーは天候に恵まれ、古山遊歩道でアサギマダラのマーキング体験ができた

### (3) 成果発表

自然環境学習講座事業の成果については、11月16日(土)午前10時30分から、豊川市勤労福祉会館で開催された「東三河生態系ネットワークフォーラム2019～穂の国いきものがたり 子どもたちへ水と緑でつなげよう～」で地域環境リーダー2名が発表した。

自然の魅力発見ツアーガイド体験事業については、12月6日午後2時から田原市役所6階講堂で開いた令和元年度の「2019年度渥美半島自然環境学習フォーラム」で地域環境リーダー2名が発表した。